

飼料用米(みなちから)の稲こうじ病防除を実施しましょう。

稲こうじ病(カビ毒の一種)が混入した飼料用米は検査規格外となる恐れがあり、多発すると大きな問題となります。出穂期の天候によっては、多発する恐れがありますので、防除を徹底しましょう。



- ・稲こうじ病は黒い菌核が発生してからの薬剤防除では効果がありません。そのため、発生前の予防(防除)を行う事が重要です。

《飼料用米(みなちから)稲こうじ病防除時期》

- ①出穂期予想からZボルドー粉剤DL、ドイツボルドーAで防除を行う場合の散布時期を算出したので、以下の時期で散布しましょう。
- 6月 5日移植・・・8月 1日～8月 6日の間で散布
 - 6月12日移植・・・8月 4日～8月 9日の間で散布
 - 6月19日移植・・・8月 7日～8月12日の間で散布
 - 6月26日移植・・・8月10日～8月15日の間で散布
- ②モンガリット粒剤で防除する場合についても上記期間で実施してください。

名 称	10a当たり使用量	使用時期
Zボルドー粉剤DL	3～4kg	出穂20日前 ([穂肥1回目]の時期)
ドイツボルドーA	希釈倍率2000倍、散布液量60～150ℓ	
モンガリット粒剤(紋枯病にも効果有)	4kg	

＜ボルドー剤散布の際の注意点＞

▽散布は遅れないようにしましょう！

▽出穂10日前以降に散布すると穂に薬害がでるので注意しましょう！

▽日中等の高温時を避け、夕方の涼しい時間帯に散布しましょう！

**※フルスロトル箱粒剤を使用した場合必ず稲こうじ病の防除をします。
但し、昨年稲こうじ病が多発した圃場では、箱施薬の種類に限らず必ず防除を実施しましょう。**

裏面には、「イネカメムシ出穂期防除」情報を記載しています。

飼料用米(みなちから)のイネカメムシ防除について

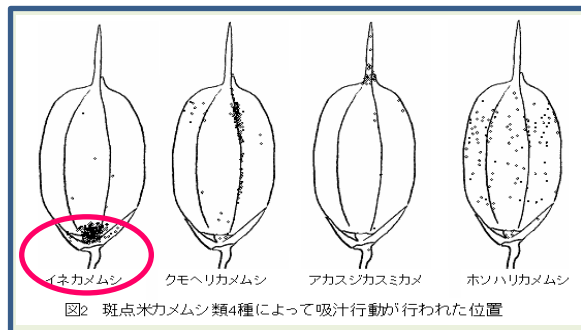
令和5年度栽培ごよみよりイネカメムシ対策として、**出穂期の防除体系の追加と農薬をエクシードフロアブルへ変更しております**。イネカメムシは籾の基部を吸汁し、不稔粒を発生させ、減収の要因となります。防除を行う際は、下記の表を参考に実施しましょう。また、**スタークル豆つぶ**による防除も効果的ですのでご使用下さい。

◎イネカメムシ対策(防除)

農薬名	10a当り使用量	散布時期
エクシードフロアブル	希釈倍率2000倍 散布液量 60ℓ～150ℓ	出穂期に散布 (不稔籾対策)
スタークル豆つぶ	250g	出穂7～5日前に散布 (不稔籾対策)



イネカメムシは、籾の基部を吸汁し、**不稔粒・未熟粒を発生させます**。日中は株元に潜み、夜間になると穂に移動し吸汁します。ただし、**日中でも穂に移動している場合は多発生の恐れ**があるため、速やかな防除が重要です。



○スタークル豆つぶを散布する場合

出穂7～5日前
に散布

穂ばらみの頃



○エクシードフロアブルを散布する場合

出穂期に散布

4～5割の穂が
出穂した頃



出穂7～5日前

～

出穂期

現在、福岡県内のイネカメムシ発生状況は、7月9日時点の予察情報により一部地域で昨年よりも多く発生しています。管内においても早期水稻で多数確認されており、出穂期防除が行われました。また、普通期水稻でも一部地域で圃場へ飛来していることが確認されています。飼料用米(みなちから)でも、出穂期に飛来する可能性が極めて高いため、圃場をよく確認していただき、飛来していたら必ず防除しましょう。

★ご不明な点につきましてはJAまたは普及指導センターへお問い合わせください。